

令和8年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名	豊島区立富士見台小学校
校長名	田中 良行

学校の教育目標

元気いっぱい さわやか笑顔 かがやくひとみで 未知にチャレンジ

学力に関する目指す児童像

- ・自分の思いや考えをもち、すすんで表現して伝えようとする子
- ・相手の思いや考えを大切に受け止めようとする子

授業改善推進プランの全体像

【学校教育目標】

元気いっぱい さわやか笑顔
かがやくひとみで 未知にチャレンジ

【児童の実態】

- 課題に対して、自分なりの考えをもつことができる。
- 相手の気持ちを考えて、思いやりのある行動ができる。
- 繰り返しの練習を苦手にしたり、見直しをする習慣が身に付いたりしていないため、学習の定着が図れない。
- 自分を客観的に捉えることができていない。

【教師】

校内研修 ICT 活用 OJT、OffJT 区教育研究会

【児童】

思考力

見通しをもって問題を解決していく力。（算数、理科、社会、総合的な学習の時間など）

コミュニケーション能力

伝え合う場面を設定していく力。（国語、外国語、特別活動など）

表現力

思いをもって表現できる場を設定していく力。（音楽、図工など）

技能力

トライ&エラーを繰り返しながら、よりよくしようとする場を設定していく力。（体育など）

実践力

学習したことを、生活の中に活用していく力。（家庭科、道徳など）

【目指す児童像】

自分の思いや考えをもち、すすんで表現して伝えようとする子
相手の思いや考えを大切に受け止めようとする子

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
・ 思いや考えを伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げられる力 ・ 言葉の意味や働きを理解し、相手意識をもって表現する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュ ラム	○名前を呼ばれたら大きな声で返事をするこ とができる。 ◆相手を呼んでから、聞こえる声で話すとい う基本が身に付いていないため、話が伝わら ない。	・言葉の最後まで、相手に伝わる声で発言す ることを意識させる。
低	○教材文から内容を読み取ることができる。 ◆自分の考えをもつことができない児童や表 現できない児童がいる。 ◆助詞の使い方が身に付いていない児童がい る。 ◆平仮名・漢字の定着に個人差がある。	・話し合いの際には、事前に自分の考えを整 理する時間を多く設定する。どのようにす れば話し合いが深まっていくか、モデルを 提示する。 ・視写などの書く経験を積ませて、正しい助 詞の使い方、言葉の特徴を身に付けさせる。 ・小テストを有効的に活用する。
中	○物語文では、文章から場面の様子を想像し ながら考えることができる。 ◆新出漢字が定着しにくい。 ◆音読での読み間違いをする児童が多い。 ◆作文への苦手意識がある。段落のつながり を意識できない。	・宿題で同じ漢字を繰り返し学習したり、小 テストを実施・直したりすることで新出漢 字の定着を図る。板書にも積極的に漢字を 使い、日常より漢字に慣れ親しむ。 ・宿題として音読の実施をしている。また、漢 字学習のときには送り仮名を書かせること で定着を図っている。 ・作文の際には、教科書の例示をよく確認し、 文章構成を意識させる。
高	○説明文の事実と意見等、既習事項を踏まえ て読解できる児童が多い。 ◆言葉に対する認識が十分でなく、自信をも って上手に思いや考えを伝えられない児童 が多い。 ◆筆者の考えに対する自分の意見を書くこと に苦手意識がある。 ◆漢字の定着に個人差がある。	・グループ活動や対話場面を増やし、経験を 積んで自信をもって伝えられるようにす る。 ・例を示すなどして書き方を学び、文を書か せる機会を増やす。 ・小テストを用いて、アウトプットを継続的 に行う。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
- 単元の導入で生まれた疑問や興味を大切に、主体的に学習に取り組む力 - 資料などを活用して詳しく調べ、その中で生まれた考えや疑問を基にさらに自分の考えを深める力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○学習問題を基にして学習計画を立て、見通しをもって学習を進めることができる。 ○体験的な学習には意欲的であり、すすんで学習に取り組むことができる。 ◆資料を読み取ることが苦手である。 ◆都道府県の位置や、方位など、知識の定着が難しい。	・ICT 機器を活用して考えの共有を図り、児童の学びを深めたり、学習意欲を高めたりする。また、教科書や副読本を用いて、資料を活用する学習を行っていく。 ・都道府県の定着では、学習ソフトを活用して楽しく取組ができるようにする。また、地図記号の定着のために地図記号クイズを実施する。
高	○資料の読み取りからどのようなことができるかを考察することができる。 ○学習したことを自分なりの方法で表現する力がついてきた。(新聞・スライド等) ◆調べたことを関連づけて、表現する力が弱い。	・問題設定と予想の時間を大切に、調べ学習の意欲をさらに高める。 ・発表する場を設定することで、自分で調べたり考えたりしたことをアウトプットすることで知識の定着を図る。 ・まとめを自分で書く活動を十分に取り、自ら学習内容を整理する時間をつくる。

3 算数科

目指す児童像を基にした算数科での育成したい資質・能力		
- 学び合いの中から数理的に処理することのよさに気づき、生活や学習に活用しようとする力 - 数量や図形などについての基礎的な内容を理解し、自分の考えを筋道を立てて表現する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	○具体物と具体物を対応させて数の大小を比べることができる。 ◆数字を正しく書くことができない。	・1～10までの数を、具体物から半具体物を通して、正しく理解できるようにする。 ・数字を正しく書く。
低	○計算方法や問題の解法は身に付いている。 ◆演算決定の根拠を十分に説明できない児童が多い。 ◆数量的な感覚が養われていない。	・根拠の基となる図や表を用いて考えさせることで、理解を深められるようにしていく。 ・説明を例示したり模範を示したりしていくことで、説明する経験を重ねさせていく。 ・デジタル教科書を用いて、視覚的に分かりやすい工夫を取り入れたり、具体物を用いたりして感覚を養っていく。

中	○繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算、小数のたし算などの計算は、正しくできるようになってきた。 ◆コンパスや分度器の操作が不十分で、作図などの操作活動が苦手である。 ◆自分の考えを言葉で表現して発表することが苦手である。 ◆文章問題の理解が難しく、立式を苦手とする児童が多い。	・単元計画を工夫し、操作活動を行う時間を多く取り入れる。 ・発表の際、一人の児童の発表にとどめるのではなく、考えを共有することで、自分の考えの発表機会を増やす。 ・文章問題を絵や図などで表し、絵や図から立式を行い、立式の数値が文章問題のどこに当たるかを確認することで、多面的に問題場面を理解できるようにする。
高	○面積、体積の正答率が高い。 ○約数を使う場面を選ぶこと、三角形の内角の和と外角の関係、比例に関する問題の正答率が高い。 ◆5年生…小数のわり算、倍の計算（割合）、の正答率が低い。 ◆6年生…分数と小数のしくみや計算、ひし形の面積の正答率が低い。	・習熟度に応じた、問題設定や授業展開の工夫をする。 ・教科書、ドリル等を活用して、計画的に基本的な学習の定着を図る。 ・I C T機器を活用し、具体的な場면을想像して問題を読み取れるようにする。 ・数感覚を養えるように、様々な視点で数値を見るようにする。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
・身近なことから学習問題を見出し、見通しをもって主体的に学習に取り組む力 ・安全に観察・実験を行い、その結果を考察し、学習内容をまとめることができる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○観察や実験は、意欲的に取り組むことができる。 ◆論理的に結果を予想することが難しい。 ◆結果からどのようなことが分かったのか考え、表現できないことが多い。	・考える視点を与えた上で、予想や考察をするようにする。 ・予想を証明する結果はどのような結果なのか事前に押さえ、実験を行うようにする。 ・よくできている児童の観察カードや観察方法を紹介していく。
高	○観察や実験は、予想を立てて考え、見通しをもって、意欲的に取り組んでいる。 ◆結果を基に考察を考え、自分の言葉でまとめたりすることに課題がある。	・自分の考えと友達の考えを比較しながら、共通点・相違点に注目させることで、まとめることができるようにする。 ・自分の言葉でまとめることを習慣付けることで、どのように書けばよいかを身に付けさせるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
・具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かすことができる力 ・身近な人々や自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュ ラム	○観察したものへ素直な気付きがある。 ◆学校生活を支えている人々の存在に気付いていない。	・学校には、自分たちの生活を支えてくれている人々がいることに気付けるようにする。
低	○学習活動に意欲的に取り組んでいる。 ◆自分が育てているもの、探検した場所に興味・関心がとどまっている。	・ペアやグループ学習を取り入れる。異年齢との交流の場面を設定したり、友達と関わり合いながら学習したりする機会を増やす。 ・友達との関わりや植物の栽培を通して得た気付きを表現しやすくするために、「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示す。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
・自分の思いや考えをもち、他者と共有して認め合い、協働して音楽表現を生み出す力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しく学習に取り組める。 ◆聴き取ったこと(知覚)と感じたこと(感受)の区別ができていない。	児童の発言を聴き取ったことと感じ取ったことに分けて板書したり、「音楽の感じ」を表す言葉を掲示し、いつでも使えるようにする。
中	○範唱や範奏を聴いて歌ったり演奏したりする技能が身に付いている児童が多い。 ◆音楽の要素をもとに想像することに課題がある。 ◆曲想にふさわしい音楽表現をすることが苦手である。	・曲想と音楽の要素を関連付けていく活動を取り入れる。 ・どのように演奏したいかについて、対話を通して児童の考えを引き出して整理する。また、児童のもったイメージを具体化するために、教師の範唱や範奏を聴かせる。
高	○範唱を聴いて歌う技能に関しては身に付いている。 ◆リズム譜含め、読譜力に課題がある。 ◆すすんで音楽表現をしようとする意欲が低い。 ◆思いや意図をもつことができない児童もいる。	・活動の時間を歌うことや演奏をすることに慣れさせる。またそのために、楽器の構え方や発声の仕方等、技能の基礎を身に付けさせる。 ・曲の一部でも、自分で譜読みをする経験を増やし、読譜に慣れさせる。 ・「音楽の感じ」を表す言葉を参考にさせ、自分の思いを言語化するためのヒントになるようにする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
・自分の感覚や行為を通して生活や社会の中の形や色などと豊かに関わり、つくりだす喜びを味わう感性を育む。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しみながら、つくったり表したりできる。 ◆児童によって、発想や技能面での差が大きい。	・基本的な道具の使い方など、分かりやすく提示し、経験を重ねていけるようにする。 ・実態に合わせた題材を設定し、感覚や行為を通し、自然に発想できるようにする。
中	○すすんで活動に取り組むことができる。 ◆難しい道具の取り扱いなどで、児童によって技能に差がある。	・基本的な道具の使い方を分かりやすく提示し、自分の感覚や行為を通して楽しみながら作る経験を重ねていけるようにする。
高	○主体的に学習に取り組んだり、自分の発想を広げたり、これまでの経験を生かして取り組んだりできる。 ◆表現するために必要な知識や技能が身に付いていない児童もいる。	・材料や道具の精選を行い、自分の感覚や行為を通して自分の思い付いたことに合わせて、表し方を工夫できるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
・日常生活から家族や家庭、衣食住、消費等についての体験を振り返り、よりよく生活しようとする力 ・家庭科の学習で実践した内容を友達と共有し、それらに関わる技能を身に付けようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	○日常の経験を基に、学習内容について意欲的に思考・対話したり体験したりしている。 ◆経験のない活動（調理や裁縫等）は、習得までの個人差が大きく、個別指導や支援を必要とする児童がいる。 ◆食に関しての興味関心が低い児童が多い。	・写真や動画等を活用して、事前指導を丁寧に行うことで、安全に取り組めるようにする。 ・支援員の先生や栄養士と連携をし、個別指導や支援が行える場面を増やす。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・生涯にわたって運動に親しむ基礎的な力 ・健康の保持・増進と体力の向上を図り、明るく楽しい生活を営む力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○運動をすすんで楽しむことができる。 ◆固定遊具を使った運動遊びが少ないため、苦手とする児童が多い。	・よい見本を提示して、学び合いのある場を設定する。 ・補助具を活用したり、場を工夫したりすることで、段階的に体の使い方が身に付くようにする。

中	○意欲的、積極的に運動に取り組むことができる。 ◆自分の活動を振り返る力が足りない。 ◆鉄棒運動やマット運動などの器械運動を苦手とする児童が多い。	・タブレットを活用し、練習方法を伝える。 ・活動カードを利用し、毎時間のめあてを明確に提示し、良い内容の振り返りを全体で共有する。
高	○体を動かすことにとても意欲が高い。 ◆走の運動、器械運動などの技能面で個人差がある。 ◆体の動かし方を理解するまでに時間を要する児童も多い。	・動画教材を活用することにより、運動の特性や動きのポイントを理解できるようにする。 ・児童同士で教え合う時間を設ける。 ・ICT 機器を活用し、自分の動きを動画に撮影したり、友達の考えを共有したりすることで、自己の課題を見付ける機会とする。

10 外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語科等での育成したい資質・能力		
・話したり聞いたりする活動を通して、思いや考えを伝え合う力 ・外国語活動を通して、外国の文化について理解を深め、その多様性を尊重する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○外国語に親しんだり、外国の文化に興味や関心をもったりすることができる。 ◆挨拶などの基本的な外国語がなかなか覚えられていない。	・朝の会などで外国語で挨拶する等のクラスルームイングリッシュを取り入れることで、基本的な外国語を自然に話せるようにしていく。
中	○外国語に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。 ◆学習した外国語を意欲的に話したり、聞き取ったりすることが苦手な児童が多い。 ◆ALT と自らコミュニケーションを図ろうとする児童とそうでない児童の差がある。	・ALT と連携し、簡単な挨拶などの交流活動を児童同士でも行えるように広げ、外国語に親しむことができる環境づくりをしていく。 ・ゲームやペア学習などの活動を多く取り入れることで言葉や表現を主体的に学び、活用できるような学習活動にする。
高	○すすんでコミュニケーションを取ろうとしている。 ◆発音練習をいい加減にしてしまう。 ◆細かい発音の聞き取りができていない。	・ゲーム性を取り入れ、楽しく発音練習を行っていく。 ・体験型の学習を増やし、すすんでコミュニケーションをとれるようにしていく。 ・口の動きから、発音の違いに気付かせる。

11 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
・自分と違う考えがあることに気付き、共感したり受け入れたりする力 ・自分を振り返って考え、他者との関わりの中で、よりよく生きようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組

低	○教材に共感したり、問題意識をもったりすることができる。 ◆自分を振り返り考える経験が不足している。	・他者の経験や考えに数多く触れることが、自分の振り返りに生かされていくように、話し合い活動の形態を工夫する。
中	○登場人物の気持ちを考え、ワークシートに書くことができる。 ◆発言する児童が限られたり、発信するのみになってしまう、思考に深まりが出ない。 ◆ねらいとする価値から反応がずれてしまう。	・個人、ペア、グループ、全体で考える活動をも適宜行うことで、児童が自分の考えを伝えたり、考えを深めたりしやすい授業構成とする。 ・ワークシートや ICT を活用し、友達の意見を聞いて考えたことを書く。 ・児童の発言に対し、教師は「他の人はどう思う？」と全体に広げる発問をする。 ・本時のめあてを明確にし、振り返りで自分の考えをもつことができるようにする。
高	○登場人物の気持ちを考え、発言したりワークシートに書いたりすることができる。 ◆道徳的価値を理解することができる児童が多いが、実践することができていない児童が多い。	・主発問の精選や資料の提示など、教材を工夫して児童が考えやすいようにする。 ・道徳の授業で学んだことを生かせるように、教科を横断した様々な場面で声かけを行い、実践できるようにする。

12 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
・各教科等と関連をさせながら、探究課題の解決に向けて見通しをもって取り組む力 ・自ら問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○課題に応じてどのように調べるかを考え、インターネットや学校図書館などの資料の活用方法を見だし、調べ学習を行うことができる。 ◆課題について理解し、調べることができる児童がいる一方で、検索キーワードやたくさんの情報の中からどの情報を選択すればよいか悩む児童がいる。	・YAHOO キッズなど使いやすいサイトを学級で共有し、友達と協力して調べていくことができるようにする。 ・対話的・協働的に学習できるように、ペアやグループなど学習形態を工夫する。 ・ねらいを明確にして、児童が学習の見通しをもって活動できるようにする。
高	○自ら課題を見付け、解決のために意欲的に調べ学習を行っている。 ◆調べた内容を理解する読解力に差があり、その力が低い児童の意欲の低下が見られる。	・国語で学習した漢字の学習や文章を読む力が、総合的な学習の時間などの調べ学習にもつながることを意識させ、授業に取り組めるようにする。 ・どのようにまとめ、誰に向けて発表するのかなど目的意識をもてるようにする。

13 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力
・学校生活の充実と向上を自分事として捉え、諸問題について主体的に考えることができ、友達と協力して互いのよさや可能性を発揮しながらその解決を図ることができる力

学年	現在の状況	改善のための取組
低	○当番・係活動では、友達やクラスのためになることを考え意欲的に取り組んでいる。 ◆集団での合意形成をしながら何かを作り上げる経験が少ない。	・教師側から問い掛け、問題提起する。 ・児童たちで話し合い、意思決定する経験を積ませていく。また、最初は話し合ったことをすぐに実行できる場を意図的に作る。
中	○係活動では、みんなのためになることを考え、意欲的に取り組んでいる。 ◆発言者の話を最後まで聞かなかったり、指名されていないにもかかわらず思ったことをすぐに声に出したりしてしまう。	・年度当初に学級会での話し合い方について確認し、計画的に進めていく。 ・児童同士で話し合いのよかったことを見付け合い、最後に共有する時間を設ける。
高	○任された役割や仕事に、責任をもって取り組むことができている。 ◆委員会活動の当番もあり、係活動を行う時間がなかなか確保できない。 ◆学級会の進め方や発言に個人差がある。	・係活動や学級会が計画的に行えるよう、学級活動の時間の予定表を作成する。 ・学級会で出たよい発言や、司会グループの進め方などを掲示する。

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

特別支援教室での育成したい資質・能力		
・学校生活の基礎となる学習態勢の確立 ・自分の言動を調整する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○少人数の中では適切に友達と関わることができる。 ◆話を最後まで聞くことが難しい。	・端的に短く話す。手順を板書し、視覚的に分かりやすく提示する。 ・話を聞く活動の前に運動を取り入れ、動きのある活動と座って静かに聞く活動を織り交ぜて活動する。
中	○自分の思いを簡単に話し、振り返ることができる。 ◆こだわりから他の人の考えを受け入れられないことがある。	・個別指導や小集団活動では、授業の振り返りをする活動を引き続き行う。 ・コミュニケーションや運動、ゲーム性のある活動を通して、他人の意見に歩み寄ったり受け入れたりする経験を積ませる。
高	○積極的に自分の意見を話すことができる。 ◆自分の言動を客観的に見て振り返ることが難しい。	・小集団活動では、自分の話をするだけでなく、相手の話を聞くことができるよう少人数で話す・聞くやりとりを行う。 ・自分の言動を振り返らせ、よりよく生活するための改善策について考えるソーシャルスキルトレーニングを行う。 ・できないこと、困っていることを言葉で伝える援助要請を行う。